

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人富山大学

1 全体評価

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目指している。第3期中期目標期間においては、カリキュラム改革や教育方法の改善、強みを持つ先端分野の研究強化やイノベーション創出を支える教育研究組織の整備・充実に従い、全国的な教育研究拠点に向けて機能強化を行うとともに、「地（知）の拠点」を目指し、地域活性化の中核的拠点として、マネジメント体制を確立することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、新たな創薬資源を活用する研究拠点として、富山とアジア・アフリカ地域の創薬研究ネットワーク（TAA-PharmNet）の構築に向けて取り組んでいるほか、産業界等へ大学が持つ研究シーズを紹介すること等を目的に「Toyama Science GALA2016」を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 教員及び大学院生の研究の高度化を図るとともに、学内外の研究者及び技術者との連携を促進し、産業界等へ本学が持つ研究シーズを紹介することにより、当該大学への理解を深めることを目的とした「Toyama Science GALA 2016」を新たに実施しており、当該大学のシーズと産業界のニーズのマッチング等に取り組んでいる。（ユニット「本学の強み・特色ある研究の推進」に関する取組）
- 全学の教養教育の体制を総括及び指導する組織として新たに教養教育院を設置しており、平成30年度から開始する五福キャンパスにおける教養教育の一元化に向けて、教養教育院教授会及び新教養教育カリキュラム等検討ワーキンググループ、教養教育企画実施委員会を開催し、新カリキュラムの検討（3キャンパスの授業科目の整理・集約等）を実施し、教養教育として開設する授業科目を決定している。また、この決定を受け、各学部で「新教養教育における卒業要件」について検討を実施したうえで、卒業要件を決定している。（ユニット「教育研究組織の再編」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 積極的なリエゾン活動による外部資金の獲得

4名のコーディネーター及び2名の知財マネージャーが、研究室(医薬理工系)を260回、企業を284回訪問し、シーズの掘り起こしとニーズの把握を実施しているほか、共同研究等の増加のために企業の技術相談を80件行うなど積極的なリエゾン活動を展開した結果、受託研究の金額は約7億3,900万円(対前年度比約1億600万円増)となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 地域を志向する正課教育の実施

地域の諸課題に対し意欲と識見と強い気持ちを抱き、富山を愛し、粘り強さ及び実践力を併せ持った人材の育成を目的として、地域課題解決型人材育成プログラムを新たに実施している。プログラムの実施に伴い、環境省や県内市町村の協力を得て実地調査を含む授業を行う「富山学」や、県内全ての自治体の協力を得て、地方創生や地元定着に関する取組を実施する「地域ライフプラン」等を開講しており、履修者は延べ3,724名となっている。

○ 研究シーズと産業界のニーズのマッチングに向けた取組の実施

教員及び大学院生の研究の高度化を図るとともに学内外の研究者及び技術者との連携を促進し、産業界等へ大学が持つ研究シーズを紹介すること等を目的に「Toyama Science GALA2016」を実施しており、基調講演や研究成果の発表等の取組を行っているほか、研究シーズと産業界のニーズのマッチングに取り組んでいる。

○ 富山・アジア・アフリカ地域の創薬研究ネットワークの構築

新たな創薬資源を活用する研究拠点として、富山とアジア・アフリカ地域の創薬研究ネットワーク(TAA-PharmNet)の構築に向けて取り組んでいる。平成28年度においては、山東大学(中国)、瀋陽薬科大学(中国)、慶熙大学校(韓国)、ハサヌディン大学(インドネシア)及びカイロ大学(エジプト)から教員を招き、「第1回富山・アジア・アフリカ創薬研究シンポジウム」を開催し、招待講演18題及びポスター講演59題により、創薬研究成果が発表され、教員・学生・企業研究者を合わせ、約150名が参加している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 富山県との連携した説明会の実施等研修医の確保に向けた取組の実施

初期研修医及び後期研修医を増加させるため、富山県との連携によるレジデントカフェ、合同就職説明会(東京・名古屋)及び病院見学会を開催するとともに、病院長主導によるハンズオンセミナー(学生・研修医を対象にした実技研修プログラム)を実施しているほか、無線LANの設置やローテーション変更希望に対する柔軟な対応等、環境整備の充実に取り組んだ結果、初期研修マッチ者数は平成27年度25名であったのに対して32名、後期研修医の入局者数は第2期中期目標期間が平均25名程度であったのに対して55名であり、それぞれ増加している。

○ 臨床研究支援体制の強化

臨床研究推進センター(附属病院組織)と臨床研究・倫理センター(全学組織)を統合し、新たに臨床研究管理センターを設置することにより、研究倫理の総合的管理、治験及び臨床研究の実施に対して一元的に支援できる体制を構築し、臨床研究等の一層の推進を図っている。

(運営面)

○ 安定的な経営基盤確保に向けた取組の実施

安定的な経営基盤確保に向け、経営担当副病院長を座長とした経営改善タスクフォースを設置し、収支改善のための対策（増収・経費削減）の検討及び実施状況の進捗管理に取り組む（平成28年度：43回開催）とともに、新たに経営コンサルタントの助言も受け、診療報酬における新たな加算項目の洗い出しや後発医薬品への切替え、医療用消耗品の安価品への切替え等に取り組んだ結果、診療報酬請求額は目標より約3億円の増額、医療経費は目標より約7,310万円の減額を達成している。